

## 小山をよくする会

歴史と文化を活用した地域づくり  
～ふるさとを誇る住民意識の啓発事業～



赤枠で囲われたところが小山地区

### 1 基本データ

- 地区名 小山地区
- 地区人口 1, 966人 (H29.1.1 現在)
- 世帯数 630世帯
- 面積 約43.4km<sup>2</sup>

小山地区は、大野市の南西部に位置し、市街地に隣接し、大型ショッピングセンターなどの商業施設が立地している。

その歴史は古く、地区内を南北に縦断する赤根川流域を中心に縄文時代から人が住み着いており、大きな勢力を持っていたと思われる豪族の古墳がいくつも存在している。

平安時代には藤原氏の荘園となり、その後、京都の春日大社と深い繋がりを持ちながら、現在まで、地区有数の農村地帯として発展してきた歴史がある。

本事業の実施主体は、地区内全戸を会員とする小山をよくする会である。

事務局を小山公民館に置き、地区内から選出された会長1人、副会長2人と、各集落の代表として選出された推進委員45人で話し合いを行いながら、明るく豊かで住み良い地域づくりを目指して活動している。

### 2 現状と課題

小山地区は、大野市内でも有数の歴史を誇る地区である。

公民館の歴史講座を受講したことをきっかけに、平成18年頃に地域の歴史を学習するグループが生まれ、地域史の掘り起こし活動が行われてきた。

この活動をベースとして、平成22～26年度に実施された「結の故郷づくり交付金事業」を活用して、地域の歴史と文化を活用した地域づくり事業を展開した。

事業を実施するにあたり、次の二つを事業の柱とし、事業の実施方針とした。

1つは、地域の歴史や文化を掘り起こし、これを地区住民に知ってもらい、地域を誇りに思う住民意識の醸成を目的とした「歴史と文化の里づくり事業」である。

もう1つは、古くから米づくりなどの農作業により地域に受け継がれてきた「結の精神」を後世に承継していくことを目的とした「地域コミュニティ支援事業」である。地域住民が一丸となり、地域の課題を住民が知恵を出し合い協働で作業し解決するといった風土を継承していくために支援していくものである。

### 3 事業の内容

#### ①歴史と文化の里づくり事業

平成23年度に地域の歴史の掘り起こしを目的として開催した地域歴史講座に、講師としておいでいただいた青木豊昭氏（県立一乗谷朝倉遺跡資料館 元館長）が、小山地区の史跡などに興味を持たれ、独自に史跡調査を実施された。

その結果、南北朝時代の戦を記録した軍中状に記されている「舌城」が、御城山（上舌地係）に存在していたことがわかってきた。

また、御城山に38基ある古墳群に墳丘の長さが約30メートルの前方後円墳が確認された。

奥越地区唯一の前方後円墳と言われる山ヶ鼻6号墳（尾永見地係）に次いでこの発見である。

歴史的に貴重な史跡として確認された舌城を地域内外の方に知ってもらうために、平成24年度より散策道の整備を開始し、今年度全区間が完了できた。

御城山は、標高244メートルで高低差は約50メートルの低い山であるが、人が歩けるような道が全くなかったところを切り開いて道を作ることは重労働であった。今後はこの作業道を維持していくことが重要であり、下草刈りなどの維持管理を継続して行く必要がある。

#### 平成28年度舌城跡遊歩道維持作業

今年度作業内容としては、遊歩道の維持を目的に、下草刈り、枝伐採、杉葉除去等を実施した。

また、小山地区史跡めぐりウルトラクイズを開催し、新たに発見された舌城跡を含め、地区住民に周知する取組みにも力を入れている。参加者からは、「主郭・堀切などの山城跡がはっきりと姿を現し、中世の戦いの舞台へタイムスリップしたようだ。」という感想が聞かれた。



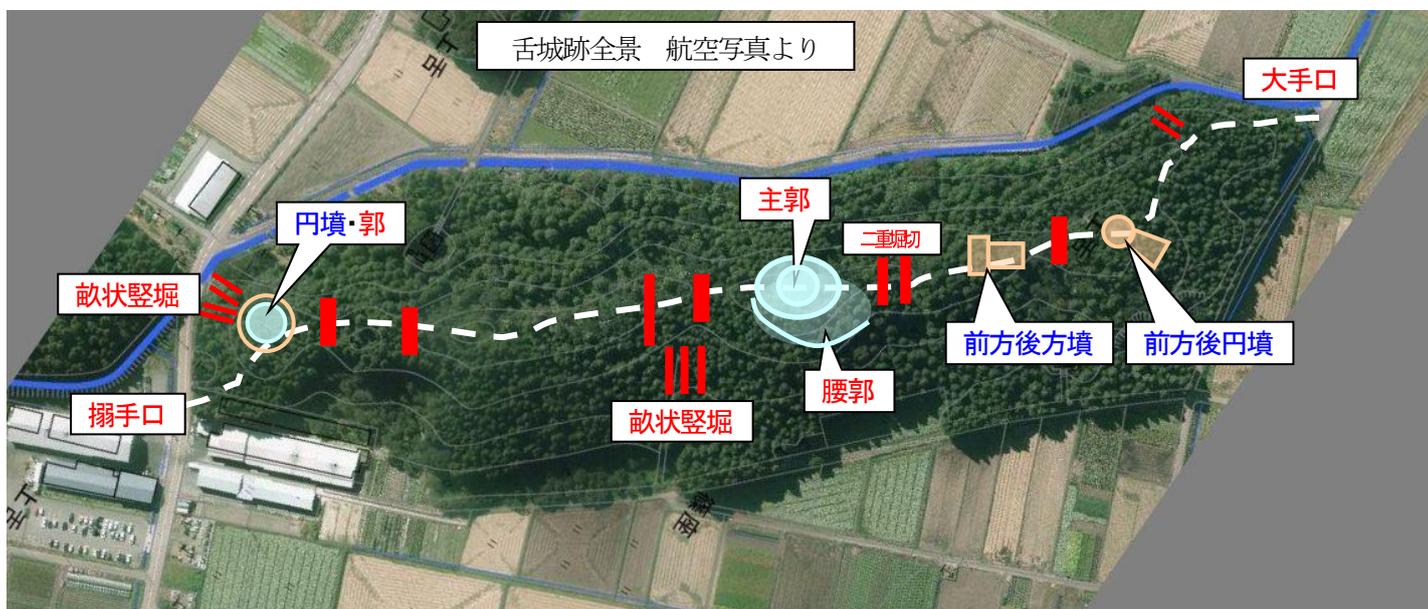
〈下草刈り作業〉



〈案内表示の取替え作業〉



〈小山地区史跡めぐりウルトラクイズ〉



### 平成28年度小山鍬踊り紹介・解説番組作成

今年度は、小山地区で継承される「小山鍬踊り」について、後世まで継承していくための取組みを行った。「小山鍬踊り」は、昭和初期に小山村の吉田徳五郎村長が農業振興施策の一環として普及させたものであり、「農民魂」を育てることを目的としており、農作業の1年を踊りで表現している。当時、モットーとした「愛汗喜働」という言葉と共に現在に継承されており、小山地区の宝物と言える。しかしながら、農作業の機械化に伴い、鍬踊りで表現される昔ながらの作業や言葉が理解できないという状況であるために、鍬踊りで表現される作業を映像で紹介・解説する番組を制作し継承活動に役立てていくことを目的とした。



〈あぜぬりの撮影風景〉



〈田植えの撮影風景〉



〈鍬踊りの撮影風景〉



〈稲刈りの撮影風景〉

5月9日から11月6日にかけて農作業や鍬踊りの撮影を行った。

農作業については、よくする会会員や小山鍬踊り保存会会員が実際に農作業を行い撮影した。

鍬踊りの撮影に関しては、鍬踊り保存会や飯降地区の練習風景から小山まつりでの披露、大野市文化祭での披露を撮影した。小山小学校については、結の故郷小学生ふるさと芸能発表会や小山地区体育大会で披露したものを撮影した。

また、小山地区の有識者の説明を撮影し、映像の編集をしてDVDにまとめた。



〈DVD 完成発表会〉

完成した DVD については、完成発表会を行い披露した。次年度以降、各集落で保存・活用してもらうために DVD 配布するほか、小山小学校などでの教育に使用してもらう。また、イベントなどで放送し、伝統文化を継承していく意識の向上を図ることとする。

## ②地域コミュニティ支援事業

今年度も、5 地区において集落内の問題を解決するための事業と、小山地区内有志で組織された実行委員会による地域・世代間交流事業が計画され、提案された。

ビオトープ芝植栽事業（継続）（上黒谷）
雪崩防護壁前道路コンクリート舗装（継続）（下黒谷）
ユニット掲示板設置（鋤掛）
花壇整備及び案内看板設置（新庄）
住宅案内看板設置（南春日野）
住民交流事業「キッズフェスタ」（実行委員会）

毎年、提案された事業費総額が交付金予定額を上回るため、小山をよくする会推進委員会において交付金の配分額を決定した。

上黒谷地区では、集落内にあるビオトープへ芝生を植栽する事業を実施した。雑草取り、山砂敷き、芝生張り、目申止めを集落の住民により実施した。

このことにより、集落内の住民が力を合わせ

て作業し、自分たちが住む住環境を美しく維持していくことで、失われつつある共同作業の大切さを実感する機会が生まれた。

集落内の住民が集いおしゃべりをし、住民交流する場所として利用されている。



上黒谷地区ビオトープの芝生植栽

下黒谷地区にある平成 8 年に設置された雪崩防護壁には集落の平穏無事を祈願した観音像レリーフが飾られている。

近年、テレビ番組で紹介されたことから注目が集まり、市内外からここを訪れる人も多くなってきたことから、雪崩防護壁の脇の管理道路をコンクリート舗装することとした。

全長約 450m であることから、4 年間をかけて継続的に実施することが集落内で話し合われた。

2 年目である今年は、約 50m のコンクリート舗装が完了した。



下黒谷地区雪崩防護壁管理道路コンクリート舗装

鉾掛地区では、集落内にあるふれあい会館の外壁にある木製の掲示板をアルミのユニット掲示板に取り換える作業を集落の住民により実施した。

このことにより、悪天候でも掲示物が飛散することはなく、集落に「お知らせ」等周知することができる。結果、伝達漏れがなくなり、集落活動の活性化につながる。



鉾掛地区ユニット掲示板設置

新庄地区では、花を育てることで命の大切さを感じ、親睦を図ろうと子供育成会と老人会が協力し花の苗を植えた。

集落内に花壇を整備し、子供育成会25名、老人会40名、集落役員10名の合計75名でマリーゴールドなど272鉢分の花の苗を植えることで交流を図った。

新庄地区では、世帯数は増えたが、高齢者と子どもたちが接する場がなく、花壇を交流する場所にしていく。



新庄地区花壇整備及び案内看板設置

南春日野地区では、新しい住宅が増えていることから、旧区民も新しい区民もお互いのことをよく知ることができるようにと住宅案内看板を整備することとした。

旧区民と新しい区民とが共同で作業を行いコミュニケーションを図ることができ、住民たちの繋がりをより深めることができた。



南春日野地区の住宅案内看板設置

小山公民館で活動するグループの有志により結成されたキッズフェスタ実行委員会により、地区全体の交流、世代を越えた交流の機会として、キッズフェスタが今年度も継続して開催された。うすと杵を使った餅つきを子どもたちに体験させる内容とした。家庭での餅つき体験が少なくなりつつある中、子どもたちに餅つきを体験させる良い機会となった。また、地域に住む餅つき熟練者を招き指導してもらったことで、世代間の交流も生まれ、地域の絆が深まったイ

イベントとなった。

さらには、地域の壮年団体「小山一龍の会」のメンバーも参加、子どもがいない世帯からの参加もあり、イベントを通しての人と人とのつながりが広がりを見せている。

継続して開催していることから、住民への認知度も高まり、参加者の増加も期待している。

毎回、参加者からは大変な好評価を得ている。



キッズフェスタの様相

#### 4 事業の成果

##### ①歴史と文化の里づくり事業

小山地区のモットーである「愛汗喜働」という言葉とともに小山地区で継承される「小山鍬踊り」について、継承活動に役立てていくためのツールである紹介・解説するDVDを作成した。

このDVD作成のために、農作業の1年を撮影。実際に行われていた農作業の様子を当時のまま再現して撮影した。田おこしから田植え、稲刈りまで1年の農作業の様子を撮影し、鍬踊りの動作とどのようにつながっているかを収録した。これにより、「小山鍬踊り」が農作業と密接につながっており、昭和初期に小山村の吉田徳五郎村長が提唱した農業振興施策の一環としての「農民魂」をより理解することができた。

また、小山鍬踊り保存会の会員が踊り、その動作を丁寧に撮影したものや、小山地区敬老会や小山地区体育大会、結の故郷ふるさと芸能発

表会を撮影し、鍬踊りで表現される昔ながらの動作など分かりやすく説明する映像を作成できた。これにより、昔からの伝統芸能を大切に、地区を誇りに思う心が育まれた。

また、平成22年度に開催した地区歴史講座をきっかけに、地区内に新たな史跡（舌城跡）が発見され、歴史的に価値のある史跡を地域住民に知ってもらうため、舌城跡の遊歩道整備を実施し、今年度は下草刈りを行った。

小山をよくする会の独自事業として、整備された舌城跡を含め地域の史跡をめぐる「地区史跡めぐりウルトラクイズ」を開催し、住民への周知を図るとともに、地域を誇りに思う住民意識の醸成に取り組んだ。

参加者からは、「小山地区に住んでいながら地域の歴史の知らないことが多いことに気づいた、地区の人と交流するきっかけになった、地域の歴史に興味があった、」などの声があり、地域の歴史を知り、興味を持ち、地域を誇りに思う意識が芽生えつつあると言える。

##### ②地域コミュニティ支援事業

集落が持つ課題を集落で話し合い、集落の力で解決していくこの事業を実施したことにより、集落の共助や絆の大切さを再認識することができた。

小山地区は、農作業など地域で協力する“結の精神”が受け継がれている地区である。しかしながら、農作業の機械化や就労環境の変化などに伴い、地域をあげた共同作業の機会が減少しつつあり、本事業で地域の課題を話し合い、共同作業により解決することは、“結の精神”を継承する上でおいに役立ったと考える。

また、地域交流・世代間交流を目的に実施したキッズフェスタでは、昔ながらの食文化であるもちつき体験通じて、子どもから高齢者までが楽しく交流するとともに、臼と杵でつくもち

つきを継承していくきっかけになった。

## 5 今後の展望

今年で7年目となる本事業を継続実施してきたことで、各種行事や作業に参加した人を中心に、地域を誇りに思う住民が徐々に増えてきた。

新たに、地区の資源を生かした活動ができな  
いかと模索する地区民も出てきており、地区の  
活性化についてさらなる展開が期待できる。

小山鉦踊りの紹介番組を作成したことによっ  
て、地区に受け継がれてきている、汗を流して、  
働いて、喜ぶという「愛汗喜働」の精神を今一  
度見つめなおすことができた。

今後、歴史と文化の里づくり事業においては、  
埋もれている地区内の歴史の掘り起しに力を入  
れるとともに、これまでの取り組みを見つめな  
おすことも重要である。さらに、掘り起こした  
歴史や伝統文化などを地区住民に広げていくこ  
とが課題である。

また、地域コミュニティ支援事業については、  
事業の目的としている“結の精神”の継承を図  
るため、事業を継続していく必要がある。キッ  
ズフェスタについては、近年騒がれている餅つ  
きの食中毒に十分気をつけるとともに臼と杵を  
使った昔からの食文化体験を大切にしていきた  
い。

農作業の歴史が作り上げた助け合い、協力す  
る精神を今後も継承するためには、継続した取  
組みが必要である。

地域活動が活性化し、地域を誇りに思う意識  
や機運がより高まるよう、小山をよくする会と  
して、今後も粘り強く地域づくりに取り組んで  
行きたいと考えている。